

令和8年熊本地震に係る
第16回政府非常災害現地対策本部会議
第23回災害対策本部会議 議事録

日時：令和8年8月15日（土）16：00～

会場：県庁防災センター2階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（1）今後の気象の見通し

別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（2）県からの報告

別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（3）国からの報告

別紙「国資料」により説明（総務省、農水省、経産省、国交省、防衛省）

（4）関係機関からの報告

①海上自衛隊

八代港入浴支援送迎バスの集合場所について、桜十字ホールやつしろに加え、鏡コミュニティセンターを追加し、合計2か所となる。八代港・三角港での入浴支援は、21時以降の入浴希望者の減少に伴い、終了時刻を21時30分に変更して実施する。また八代港での入浴支援は、16日は18時から、17日は19時からとなる。両日とも給水支援、洗濯支援は一時中断しているが、18日以降に再開予定。

3 災害対策本部長（木村知事）からのコメント

別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

4 現地対策本部長（津島副大臣）からのコメント

令和8年熊本地震、千葉県での豪雨災害と、今年も自然災害が相次いでいる。改めてこの自然災害で犠牲になられた皆様にお悔やみを申し上げるとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げたい。そして被害に遭われた方にお見舞い申し上げたい。

今日8月15日、あの戦災から立ち直らせてきた先人たちの思いというものに思いをはせ、この震災から一日も早く復興させるという思いを、改めてこの

場で共有したい。私自身、この現地対策本部長として、熊本のためにこの身を尽くす、そういう思いでこの場にいる。共に汗をかいて参りたい。よろしくお願い申し上げます。

私の8月14日・15日の2日間にわたる視察報告を申し上げます。まず14日、宇土市の拠点避難所「ecowin 宇土アリーナ」では、長期化する避難生活を見据え、テントや段ボールベッドの配置、保健師の巡回など、生活面・健康面に配慮した体制を確認した。次に訪れた宇城市の「豊福保育園」では、大きな施設被害の中でも園児・職員が無事であったことに安堵した。また、子供たちの笑顔から大きな力を頂いた。一方で、施設の復旧支援や耐震強化、給食再開や保育士の応援派遣など、安心して子供を預けられる環境整備が重要であると感じた。

宇城市の「小野部田小学校」では、多世代が共存するためのルール作りが印象的であった。また、JR 鹿児島本線の不通に悩む高校生の声も聞き、代行バスの運行開始が彼らにとっての「福音」となるのではないかと考えている。引き続き、様々な不安・不満を払拭するようにして参りたい。

15日に訪れた八代市の「トヨオカ地建アリーナ」では、環境改善が進む一方、プライバシー確保や食事の栄養バランス維持などが依然として課題だと認識した。また、八代港停泊中の「はくおうⅡ」では、宿泊者約200名、スタッフ100名の計300名規模のコミュニティにより、宿泊利用の運営が行われている。入浴支援についても、昨日40名、今日は130名ほどが利用をしている。船内には子どもの遊び場もあり、子供たちの屈託ない笑顔と笑い声が響いており、こうした子供たちの状況にも目配りをしていきたいと思う。

また、医療支援についても、八代市内の医療機関と連携して適切な治療がなされたと聞いている。この船が一時的な安心と明日への活力につながるよう、国として安定的な運営を支えて参りたい。

支援いただいている応援自治体職員およびボランティアの職員の方々に対して、国からも感謝申し上げたい。被災者の皆様におかれては、熱中症や持病の悪化など、少しでも体調に異変を感じたら我慢せずスタッフに相談してほしい。また、支援物資の歯磨きシート等を活用して口内を清潔に保つことは、感染症予防や栄養摂取、ひいては命を守ることに直結することから、口腔ケアにも気を配っていただければと思う。

今後は仕事の再開や学校の新学期を見据え、生活再建と子どもたちの心のケアに目を向けて参る。子どもの笑顔は熊本の未来、そして希望である。その希望を守り、未来へと熊本をつなげていくために、これからも頑張って参りたい。